

でんでんくん



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん



あぶみ先生

発行：きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

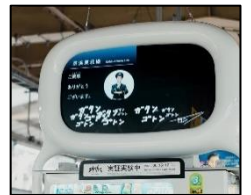
難聴学級の実践紹介（自立活動）

秋田市立A小学校では、「自立活動」のうち「障がい理解に関すること」を難聴児童2人（5年生）が主体となって学習し、学年の友だちに向けた「耳の勉強会」として発表しています。先生と一緒に学習計画を立て、自分たちが伝えたいことについて調べたり、発表するための原稿やプレゼンデータを作成したりします。会の進行も児童が協力して行います。

年に一回行ってきた学習会では、これまで「自分のきこえについて」「日頃困っていること」等を自分のことばで友だちに伝えることを積み重ねてきました。きこえにくさを友だちに知ってもらうために、聴覚支援学校職員による難聴擬似体験等も取り入れています。今年度は「エキマトペ」についての発表でした。

「エキマトペ」とは、駅のアナウンスや電車の音といった環境音を、文字や手話、オノマトペとして視覚的に表現する装置です（昨年JRの一部駅で実証実験）。

「きこえる人と同じタイミングで情報が分かる」「きこえにくい人だけではなく、漢字が読めない子どもにも分かりやすい」と、調べたことに基づいた自分の考えを友だちに発表しました。先生の「『エキマトペ』よりも優先すべきことがある、という意見もある。皆さんの考えはどうですか？」という問い掛けに、ほとんどの児童が「エキマトペに賛成」と手を挙げました。これまでの「耳の勉強会」の積み重ねに基づく障がい理解、「分かりやすさはみんなに共通」という意識の定着が感じられました。難聴児童からも、達成感にあふれた表情で「友だちに分かってもらってうれしかった」という感想が聞かれました。



〔画像：日本財団ジャーナルより〕

障害を併せ有する子どもの指導例 ～全校授業研究会から～

本校の第1回全校授業研究会で、小学部5年の国語の授業が提示されました。知的障害を併せ有する女児1名の授業で「せんせいとおはなししよう」という単元で、写真や絵を手掛かりに休日のことを思い出しながら教師とやり取りをし、それを基に絵日記をかく活動でした。授業の様子を紹介します。



- ・写真を見ながら教師の質問に答え、休日に母と一緒に昼食を作ったことを楽しそうに手話等でやり取りしていました。ご家庭から写真を提供していただいたそうです。
- ・「どこ？」等の質問に答えることがまだ難しいという実態があり、やり取りの中では選択肢を示すなどして誘導する様子が見られました。



- ・児童からの表出を教師が絵やカードで表し、それを「手話→指文字→平仮名→再度指文字や手話」と繰り返し表現するなど、定着を促すための丁寧な押さえが見られました。
- ・平仮名表記を確認する場面でも、「まま」などの分かる言葉は自分で書く、「いえ」や「ぴーまん」は平仮名の50音からカードを選ぶなど、実態把握がしっかりされているからこそ、いろいろな工夫が見られました。



- ・様々な気持ちの表現をイラストとともに手話で提示し、そのときの気持ちを確認していました。気持ちの言葉も加えて、絵日記の文にしました。



☆様々な手段で一緒に表現したり、共感してもらったり褒められたりする場面がたくさんあり、児童はとてもしきしきしていました。楽しくやり取りしながらの積み重ねを感じた授業でした。

高等部説明会から～参加者の感想～

9月28日(木)本校で、高等部説明会が行われ、校内外から5名の中学生とその保護者、担任の先生方が参加しました。学部の説明を聞いた後、高等部の授業参観や寄宿舎の見学をしました。そのときの様子と参加した生徒の感想を一部紹介します。



聴覚支援学校の説明会に出てみていろいろな授業を見て、楽しそうだなと思ったし、寄宿舎にも泊まってみたいなと思いました。

授業やコースの説明がとてもわかりやすく、こういう学び方もたくさんあるんだと思いました。実際に授業参観をして、どの科も楽しそうだなと思いました。

聴覚障害者向けの学校なので聞こえやすいように工夫されていた。生徒が少ないのはちょっとさびしいと思ったが生徒が少ないから先生と向き合いやすく、将来や進路に関する相談にもしっかり向き合ってくれそうだなと思いました。自分たち耳の聞こえにくい人向けにいろいろしてくれているのがとても嬉しいと思いました。

『補聴援助システムロジャー』 一口メモ

タッチスクリーン、ロジャーオンともに、話者の声を直接補聴器や人工内耳に届けられる便利な機器です。正しく使って、教師の話や児童生徒の発言を難聴児にしっかり届けましょう。

1 電源を入れたら聞こえをチェック

故障を教師に伝えられず数か月過ぎた例がありました。迅速な故障対応のためにも、授業開始前に難聴児と教師間で動作確認をしましょう。

2 適正距離は15～20cm

首掛けや胸ポケットに入れた場合のマイクと口元の距離です。音量が大きい場合は、距離を少し離してみましょう。タッチスクリーンは、ボリューム調整機能があります。オンはボリュームを自動調整します。うるさい、音が小さいなどの場合は補聴器のボリューム調整も活用しましょう。



口元からマイクまで15～20cm

お知らせ

11/13(月) 手話学習会 15:50～ 初級・中級・上級のグループに分かれて、楽しく学習します。

お問合わせ、参加申し込みは、前日迄に、自立活動部(小松)へお願いします。

全校授業研究会 第3回 11/20(月) 中学部 2・3年保健体育科「医薬品の利用」

第4回 11/27(月) 幼稚部 3歳児保育「プレゼントをつくろう」

申し込み締切 11/10(金) 研究部(中野)までお願いします。

12/15(金) 先輩と語る会 13:30～14:20

本校の卒業生の体験談から卒業後の生活や仕事について知ったり、学校生活で気を付けるとよいことを考える機会にしたりします。講師は、深澤 紘 さん(平成30年高等部卒:TDKエレクトロニクスファクトリーズ勤務)です。対象は、中・高校生、保護者、担当者です。この後、対象の皆さんには、ご案内をお送りします。 ◆「中学生の交流会」～「先輩と語る会」に参加後、行います。



きこえとことば支援センター(秋田県立聴覚支援学校内)【直通携帯電話】090-8784-6302

【聴覚支援学校】〒010-1409 秋田市南ケ丘一丁目1番1号

TEL:018-889-8572 FAX:018-889-8575 E-mail:chokaku-s_shien@akita-pref.ed.jp

